

事業報告書（概要版）

施設名	新潟市母子生活支援施設さつき荘	
管理者名	社会福祉法人新潟市社会福祉協議会 所在地 新潟市中央区八千代1丁目3番1号 代表者 会長 関 昭一	
基本方針	母子生活支援施設には、DV被害を受けた利用者をはじめ、多くの課題を抱えた母子が入所しています。入所から退所後の地域での生活を含め、長期にわたり母子を総合的に支援できるよう、利用者である母親の立場を尊重し、信頼関係を構築し、ともに課題を解決していく視点を持ったうえで、子育て、生活支援、就労支援などの支援を行いました。	
運営組織	職員の配置 ・施設長 1名 ・母子指導員 2名 ・少年指導員 1名 ・嘱託医 1名	
業務の実施状況	自立支援計画の策定	入所後2カ月以内に第1回目を実施、その月を起算月とし、6ヵ月毎にもれなく行ないました。
	利用者の要望意見の吸い上げ	投書箱を設置し、利用者が無記名でも随時、意見を投函できる体制を整備しました。 月1度の母親集会で、要望や意見交換がなされ、運営に反映させました。 以下のアンケートを実施しました。 ①夏休み行事を企画する際、希望アンケートを行いました。 ②小学生高学年以上を対象に生活アンケートを行い、それをもとに児童面談を行い、支援に活かしました。 ③利用者アンケートアンケートを行いました。
	苦情・要望に対する対応	地域の主任児童委員2名に委託し、第三者委員として配置しました。 第三者委員を、夏休み行事に招待し、利用者で紹介し、より相談しやすい雰囲気づくりに努めました。
	緊急時の対応	多様な緊急時に対応できるよう、対応マニュアルを整備し、職員に周知しました。 不審者侵入時の訓練を年1回実施しました。 ヒヤリ・ハット事例が発生した時には、随時、職員間で情報の共有を行ないました。
	管理運営経費の縮減	工事や備品購入は、2社以上の見積もり合わせや価格調査を行ない、適正でより安価な業者を利用しました。なお、軽微な修理・修繕は職員が協力して行ないました。 紙類使用量の減量化や不要用紙の裏面利用、封筒の再利用など、事務消耗品の節約に努めました。 昨年度同様、夜間の廊下・階段等の消灯など、利用者の理解と強力を得て、経費削減に取り組みました。
	防災対策	月1回避難訓練を実施しました。（火災・水害・地震想定）
	個人情報保護	市の個人情報保護条例および法人の個人情報保護規定を職員に周知徹底し、業務の中で常に個人情報の保護に努めました。 入所時には、関係機関との連携、個人情報の取り扱いについて、利用者へ説明し、書面で同意書をもっているが、場面ごとに利用者の承認を得よう努めています。
	配置人員	有資格者を3名配置しています。（最低基準では1名）
	配置人員の資質向上	職員の業務内容と研修内容を考慮しながら、研修機会が偏らないよう配慮し、一人あたり11～16回の研修(実習を含む)に参加しました。 県外先進施設での2日間の実習と、法人内他業種職場体験実習では、福祉職としての視野を広げ、支援姿勢の学びとなった。 職員自ら、専門性向上のため受講したい研修等を探し、積極的に参加するとともに、研修後には、直近の職員会議で報告を行うことで、施設内研修としました。